

1号艇 近畿地区代表 びわこ推薦 (GP優出者)



4262 馬場 貴也 (ばば よしや)

A1・滋賀・39歳 全国 7.60 福岡 6.85

昨年MVPが完全復活へ!

直前のSG・児島オーシャンCで圧巻の走りを披露した。茅原悠紀のスリット攻勢に阻まれて優勝こそ逃したものの、7戦6勝で優勝戦絶対枠を獲得。高速ターンが冴え渡り、昨年のMVPが強烈な存在感を放った。

その昨年はダービーで優勝を飾り、グランプリは準優勝。GIでは10優出V2と破格の安定感を誇った。賞金トップの座こそ譲ったものの、年間通じて見せた強さは最優秀選手にふさわしいものだった。

今年は住之江地区選で優勝があるものの、昨年ほどの際立つ強さが見られぬ中、SGで大活躍して一気にリズムアップ。福岡ではこれまで目立った実績こそなかったが、昨年11月のダイヤモンドCで優出3着。水面克服も時間の問題になってきた。輝きを取り戻しつつある昨年のMVPが博多水面で完全復活へ。

2号艇 東海地区代表 浜名湖推薦 (GP優出者)



4524 深谷 知博 (ふかや ともしろ)

A1・静岡・35歳 全国 7.18 福岡 6.21

スピード旋回で道を拓く!

昨年の鳴門チャレンジCで2回目のSG優勝。GIIレディースCに出場していた鎌倉涼との夫婦同時優出で注目を集め、優勝戦では6枠克服の道中逆転劇と、ド派手な活躍だった。勝負駆けに成功して乗り込んだグランプリでもファイナリスト入り。トップシーンに欠かせない存在になってきた。

今年に入っても芦屋オールスターを筆頭に、びわこBBCT、浜名湖地区選、多摩川周年とSG・GI4優出と結果を残す。ただ近況は徳山グラチャン、児島オーシャンCと予選敗退が続き、流れを変える快走が待たれる。当地はこれまで7節走って4優出だが、優勝はなし。2年前のクラシックでも初日ドリームスタートながら、節間末勝利の予選敗退と悔しい結果に終わっている。水面克服とリズムアップに照準を合わせ、持ち前のスピードターンで道を切り拓く。

3号艇 中四国地区代表 前年度優勝者 (丸亀推薦)



4459 片岡 雅裕 (かたおか まさひろ)

A1・香川・37歳 全国 6.92 福岡 6.70

アウト一発で大会連覇へ!

前年度覇者がメモリアル連覇に向けて静かに闘志を燃やす。昨年のメモリアルでSG初戴冠を果たし、上位戦線に浮上。四国を代表するレーサーへと成長した。

SG出場5節で4優出V1という昨年の素晴らしい成績を考えると、今年の実績は少し物足りなさもあるが、昨年も夏場から一気に調子を上げていったので心配は無用。今年も7月尼崎甲子園を制して全グレードレース制覇と、リズム自体は決して悪くない。

強みは何と言ってもアウトからでも一発を狙ったレースができること。昨年のメモリアルはフライング艇が発生したにせよ6コースからの優勝、今年の甲子園も4コースからの捲り差だった。とにかく優勝戦に駒を進めればチャンスあり。64、65回大会の毒島誠に続く大会連覇を虎視眈々と狙っていく。

4号艇 関東地区代表 福岡(開催施行者)希望



4787 椎名 豊 (しいな ゆたか)

A1・群馬・34歳 全国 7.12 福岡 —

スタート力発揮できるか?

昨年の尼崎オーシャンCで初のビッグタイトルを獲得。序盤から節イチ級にモーターを仕上げると、SG初の予選突破が首位通過。そのまま一気に頂点まで駆け上がった。暮れにはグランプリの舞台にも立った。

さらなる成長を期待されて迎えた23年は、ここまで6優出で優勝2回(7月26日現在)。特別戦の優出は4月の大村GII誕生祭のみと思つたような成績を残せていない。しかしGIは2月江戸川地区選、5月平和島周年では予選を突破。SGでも芦屋オールスター、徳山グラチャンと準備に駒を進めており、地力アップを印象づけた。連覇を狙った児島オーシャンCで予選2日目に痛恨のフライングを切ったため、持ち前のスタート力をどこまで発揮できるかは微妙だが、当地は優勝歴もあり相性は上々。蒲郡ダービーはF休みとなるだけに結果を出したいところだ。

5号艇 九州地区代表 直前SG優勝者(芦屋推薦)



4831 羽野 直也 (ほの なおや)

A1・福岡・28歳 全国 8.07 福岡 7.63

地元SG初Vへ好機到来!

7月末の児島オーシャンCで悲願のSG初Vを達成し、SG優勝戦最高配当を更新した。22歳にしてGI初優出初Vを飾った大村65周年は語り草だが、20代の選手のSGVも15年蒲郡メモリアルの篠崎元志以来で、世代交代の旗手なのは間違いない。

羽野の凄さはターンスピードもさることながら、レースでの勝ち筋を素早く探し出す天性のレースセンス。3月の芦屋70周年の優勝戦でFを切り、GIは6ヵ月間出場停止となったが、これで逆に「SGで稼がなければならぬ」という集中力が加わったことが先日のSG初Vに繋がったと言える。

当地はVこそないもののGI3優出と実績は十分。以前から、「地元のSGやGIを勝つことが目標」と公言しているだけに「旬」の今は、悲願達成の最大のチャンスだ。

6号艇 施行者推薦 住之江推薦



4168 石野 貴之 (いしの たかゆき)

A1・大阪・41歳 全国 7.70 福岡 7.08

SGV2の自信持つ水面!

当地開催のSGで複数回優勝している選手は今節3人いる。その1人が石野貴之だ。17年のオールスターと、21年のクラシックで優勝している。当初は当地水面を得意としている感がなく、うねりを気にする話もしていた。一転するきっかけは17年のオールスター。序盤から上位着を重ねて、優勝戦でも茅原悠紀の捲り差しを寄せ付けずに押し切った。

コメントでの裏付けもある。クラシック優勝戦の当日午前に聞いた話だ。「福岡はエンジンを引き出せば、うねりを乗り越えられる。エンジンが出ていれば大丈夫」その時は緊張感よりも、あふれる自信のほうに印象に残ったほどだ。

今年は5月芦屋のオールスターで優勝。さらにSG優出も3回もある。この好調ぶりに加えて当地SGV2の実績は、今回の好結果にも繋がってくるはずだ。

メモリアルのセンターは羽野! 優勝争いの中心は、福岡の“神7”だ!!



今年のSGも既に半分を消化。ここからはグランプリを見据えた戦いが本格化してくる。昨年のグランプリのボーダーは6409万円。となれば獲得賞金順位(7月23日現在)で6000万を超えている石野貴之(大阪)、磯部誠(愛

知)、池田浩二(愛知)、羽野直也(福岡)、茅原悠紀(岡山)、桐生順平(埼玉)、土屋智則(群馬)までは当確。5500万を超えている濱野谷憲吾(東京)、馬場貴也(滋賀)、毒島誠(群馬)もかなり有力だろう。今年の好調なメンバーとあって、もちろん有力なV候補だ。

グランプリ出場に目を向けると実質的には残り8つの椅子を懸けた争い。地元勢では15位の前田将太(福岡)、17位の篠崎元志(福岡)はもちろん、20位で当地SGV3の瓜生正義(福岡)は勝負どころ。福岡でのSGVを生涯

森 大輔 ●「西日本スポーツ」

の目標と語る岡崎恭裕(福岡)に、現役最多の当地V15の篠崎元志(福岡)、無冠返上をもくろむ西山貴浩(福岡)と福岡の“神7”がシリーズの中心を担うのは間違いない。当地メモリアルは現在3回連続で福岡勢が優勝しているのも見逃せない。

モーターに目を向けると当地の良機には2つの種類があり、1つは本体の素性が元から良い「ナチュラル型」と、中間整備が入ることで化ける「改造型」に分けられる。現在のダブルエースを形成する48と63はナチュラル型。特に48は伸び足が常に抜群で乗った本人に加えて、対戦した相手までもがうなるスーパーエース級。A+ランクの28、34、37もナチュラル型で、中でも伸び型の37はSランクに匹敵するレベルだ。

そして、「改造型」の代表格が61と75。中間整備では前回モーターで良機だった部品を投入するので激変することが多い。特にギア交換の効果が大きく、ナチュラル型を凌ぐことも。今回もギア交換で良化しているもののがかなりあり、中でもこの61、75の激変ぶりは強烈。メモリアルまでにSランクまでのし上がる可能性もあり、要注意だ。

モーター 2連率 ベスト10	順位	モーター 番号	2連率	勝率	順位	モーター 番号	2連率	勝率	順位	モーター 番号	2連率	勝率
2023年2月 使用開始 ~7月23日	①	48	50.0%	6.78	⑥	28	45.4%	5.94	⑩	59	42.1%	5.64
	②	63	50.0%	6.42	⑦	53	45.3%	6.22	⑪	62	41.9%	5.85
	③	61	47.0%	5.92	⑧	73	43.7%	6.14	●福岡はチルト1.5度まで 使用できます。			
	④	37	46.4%	6.14	⑨	29	42.3%	5.97				

2023年獲得賞金ベスト50

(7月23日・児島オーシャンC終了日現在)

順位	登録番号	選手名	支部	獲得賞金額	順位	登録番号	選手名	支部	獲得賞金額	順位	登録番号	選手名	支部	獲得賞金額	順位	登録番号	選手名	支部	獲得賞金額					
①	4168	石野 貴之	大阪	89,910,000円	⑨	4262	馬場 貴也	滋賀	55,269,000円	⑱	4350	篠崎 元志	福岡	41,974,000円	③	4371	西山 貴浩	福岡	34,717,000円	④	3780	魚谷 智之	兵庫	32,122,000円
②	4586	磯部 誠	愛知	78,830,000円	⑩	4238	毒島 誠	群馬	55,210,000円	⑲	4024	井口 佳典	三重	41,921,000円	④	4547	中田 電太	埼玉	34,617,000円	④	4494	河合 佑樹	静岡	31,611,000円
③	3941	池田 浩二	愛知	71,758,666円	⑪	4685	島村 隆幸	徳島	49,854,000円	⑳	4166	吉田 拓郎	岡山	41,694,000円	⑤	4397	西村 拓也	大阪	34,526,000円	⑤	3959	坪井 康晴	静岡	31,303,000円
④	4831	羽野 直也	福岡	70,287,000円	⑫	4320	峰 電太	佐賀	49,517,200円	㉑	3783	瓜生 正義	福岡	38,833,000円	⑥	4296	岡崎 恭裕	福岡	34,407,000円	⑥	3719	辻 栄蔵	広島	30,448,000円
⑤	4418	茅原 悠紀	岡山	68,551,000円	⑬	4013	中島 孝平	福井	46,163,000円	㉒	3854	吉川 元浩	兵庫	38,384,000円	⑦	3897	白井 英治	山口	33,633,000円	⑥	4477	篠崎 元志	福岡	30,299,000円
⑥	4444	桐生 順平	埼玉	67,960,000円	⑭	4337	平本 真之	愛知	45,843,000円	㉓	4500	山田 康二	佐賀	38,366,000円	⑧	3744	徳増 秀樹	静岡	33,083,000円	⑦	4760	山崎 郡	大阪	30,121,000円
⑦	4362	土屋 智則	群馬	60,842,200円	⑮	4504	前田 将太	福岡	43,897,000円	㉔	4459	片岡 雅裕	香川	38,040,000円	⑨	3415	松井 繁	大阪	36,056,000円	⑧	4205	山口 剛	広島	30,030,000円
⑧	3590	濱野谷 憲吾	東京	55,889,000円	⑯	4524	深谷 知博	静岡	42,235,000円	㉕	4445	宮地 元輝	佐賀	37,320,000円	⑩	3716	石渡 鉄兵	東京	36,038,000円	⑨	3779	原田 幸哉	長崎	29,908,000円

